

(別紙4(2))

事業所名 中部介護アウト・オン・ア・リム

## 目標達成計画

作成日: 令和 元年 12月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	医療依存の必要な入居者が減り、入居者と職員が「一緒に同じ時間を過ごしている」が増えている。しかし職員側の接し方に「個人の尊厳」を遵守できていない部分があり、指導や社内勉強会を実施しても職員によっては本質が見えていない。	入居者個人に寄り添って意思を尊重する「パーソン・センタードケア」を学び、日常のケアにおいて言葉遣いから中心にして向き合っていくことで、本人の生活状況が変化した場合でも適応できるように心がけていく。	日々のコミュニケーションにおいても接し方や言葉遣いなどに意識と配慮を心掛けながらケアをする。また、日常生活上で入居者の方々にも「自分の役割」を見出せるように協力をしながら、入所生活上での「生きがい」や「楽しみ」を得られるように努める。	2～3ヶ月
2	11	入居者の個別ケアに対しては、職員間でお互いの意見・提案に対して理解を示して実践に反映してきているが、事業所の運営方針に関わる事案については代表や管理者を交えながらの、話し合いの場を設ける機会が少ない。	介護現場で働く職員が職場環境や運営内容に対して何を感じているのか、どんな相談や意見・提案をしたいのか。職員側からも代表や管理者に対して、積極的に理解を深められる機会を増やしていく。	各職員の意見・相談等は管理者を主軸として話し合っているが、現場リーダーも窓口になってもらう。運営内容や方針については代表の意見や判断を必要とする場面が多いため、職場内からも代表への報告・連絡・相談ができるように努める。	3～4ヶ月
3	34	18に繋がるが、現在はADLが自立されている入居者が増えてきている。そのため、今後は見守りや介護事故発生の防止への意識が今まで以上に増え、有事の際の対応も各職員が早期対応できるように指導が必要である。	ヒヤリハットや介護事故報告書の作成をゼロにすることは難しいが、18の目標も踏まえながら日常介護での個人情報や勉強会で培った知識を活かして、緊急時でも速やかに(医療機関の協力も)対応できるように努める。	社内勉強会では起こりやすい介護事故や外傷発生についても勉強している。しかし、提供した資料のみに頼らずに日常生活上で入居者の特質を把握しながら、予めリスクを想定できるようにも学んでいく。	2～3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。